

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成7年2月6日

気 象 庁

雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

雲仙岳では、昨年後半から溶岩の供給量は減少しているが、依然として溶岩ドームの頂上付近が成長を続けている。

昨年10月中旬以降、前には見られなかった傾斜変動と山頂付近の火山性地震の発生に周期性が認められているが、地震活動レベルは低く、ドーム周辺の地殻変動は鈍化した状態が続いている。

最近の火砕流は、主に北東及び南東方向に流れ、到達距離は2 km以下と短く、回数も月平均10数回以下と少なくなっている。

このように雲仙岳の火山活動は比較的低調ながら、なお、活動を継続しており、活動が再び高まる可能性も残されている。

今後とも引き続き火山活動に警戒が必要である。